

領域プロジェクト名称	アジアのメガシティにおける気候変動に伴う健康被害の定量評価
担当教員	井原 智彦 准教授
プロジェクトの狙い	<p>地球温暖化は人間健康の社会・環境要因に影響しており、世界保健機関(WHO)によると、2030~2050年の間に、栄養不良やマラリアなどを通じて、年間死亡数を 25 万人増加させると見られています。</p> <p>非先進国・人口が急増する都市・熱帯であるアジアのメガシティでは、さらにヒートアイランド現象による高温化も加わるため、多くの健康被害が発生すると見られます。被害を防ぐ適応策を導入するためには、まず、どのような被害がどの程度発生するか、知る必要があります。しかし、全くわかっていないのが現状です。</p>
プロジェクトの内容	<p>本プロジェクトでは、アジアのメガシティ（ジャカルタを想定）で起こりうる、さまざまな暑熱に関連する健康被害を定量化し、適応策の設計につなげます。</p> <p>関連情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ● http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/koubo/pdf/3_S-14_principal.pdf ● http://www.lct.k.u-tokyo.ac.jp/index.php?id=16
プロジェクト開催場所	（本郷キャンパス）工学部 9 号館もしくは工学部 4 号館 希望に応じて、（柏キャンパス）新領域環境棟
プロジェクト計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルアセスメント(LCA)における環境影響の定量化方法、特に障害調整生命年(DALY)について学びます。 2. 疫学研究でおこなわれてきた、暑熱に伴うさまざまな健康被害や、都市で発生するさまざまな健康被害について調べます。 3. ジャカルタの気候データや公衆衛生データを整備して、気候変動によって、どのような健康被害がどの程度発生するのか、DALY を用いて定量化します。 4. 定量化された結果を用いて、どのような適応策が望ましいのか、を考察します。
ウェブサイト	http://www.lct.k.u-tokyo.ac.jp